

第11回ダムによらない治水を検討する場 説明資料

【ソフト対策の充実に向けた取り組み】

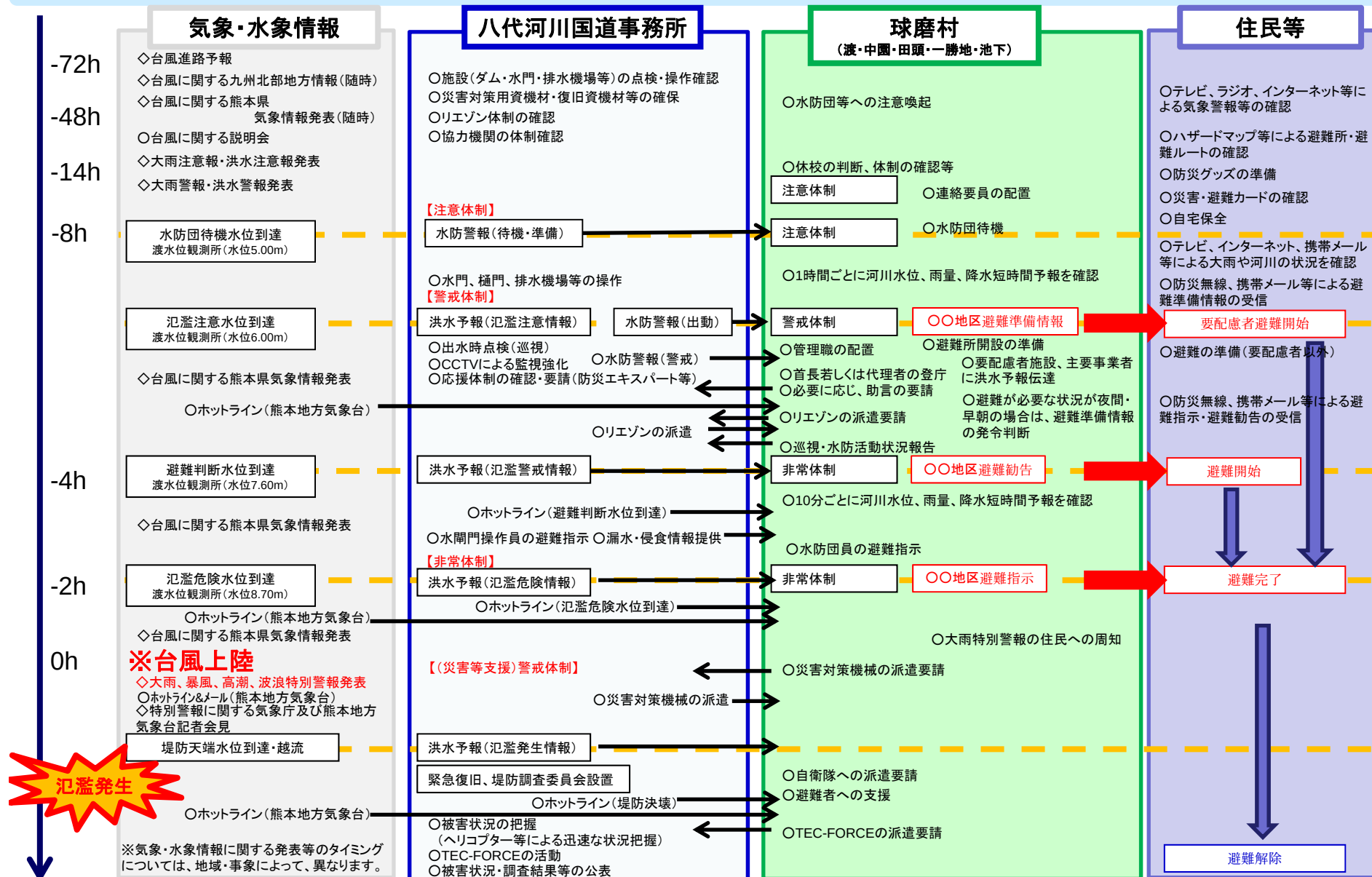
平成26年12月19日

国土交通省 九州地方整備局
熊 本 県

タイムライン(防災行動計画)の案(球磨村渡地区)

1

八代河川国道事務所では、今年度球磨村と連携し、台風の接近、上陸に伴う洪水を対象としたタイムライン(防災行動計画)を策定しています。来年度の出水期前までに、その他市町村とも連携して取り組んでいきます。



出水時の地域状況の確認

2

八代河川国道事務所では、出水時に迅速かつ的確な水防活動ができるよう、合同巡視を行っています。例年出水期前の4～5月に、八代河川国道事務所、水防管理団体(県、関係市町村など)及び水防団(消防団)が合同で巡視し、重要水防箇所、土地利用の状況、越水対策、避難所や避難経路、水防に必要な資材の確保等について意見交換を行い、改善を行っています。



▲八代出張所長の説明の様子(KKT放映より)



現地について説明する野呂所長(右)

洪水時には迅速な対応を

球磨川重要防水区間の合同巡視 梅雨を前に意見交換

梅雨時期を前に、郡市の市町村と国、県による球磨川重要防水区間の合同巡視が、28日午前9時半から、上流域で行われ、洪水時の迅速な対応に向けて意見交換を行った。

洪水時に迅速、的確な水防活動を図ろうと、国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所が毎年、直轄管理区間の堤防や河川管理施設などの水防上重要な区間、施設などについて合同で巡視し、周知や情報交換、現地の現状把握などを行うもの。

郡市内の区間を管理する同事務所人吉出張所(野呂健志所長)では、中流域と上流域の2班に分かれ、中流域では水防関係者ら約20人が出席。出発前、人吉市下青井町の同出張所では、野呂所長が「いざというときの状況を想定し、現場で資材の搬送、避難のルートなどを考え、意見の交換を」と呼び掛けた。

球磨川では、渡の浸水潜襲地帯とされる球磨川と小川の合流地点一帯を巡視。浸水被害の軽減に向け、ここ3月に合流地帯に整備された導流堤について、野呂所長は「いち

早い避難が一番の対策」として、1丁の水位低下の効果が見込める。球磨川下りにもあり、景観にも配慮した。洪水時、資材の搬送は現場道路を使うのが最適だと説明した。また、一帯の3カ所に設置中の内水を排除する可搬式ポンプの工事現場も視察し、「3基合わせた排水能力は毎秒4.2」と述べた。一行は人吉市や錦町の球磨川、相良村の川辺川の無堤地区など重要箇所も回った。



▲人吉出張所長による説明の様子(TKU放映より)



合同巡視

過去に浸水被害あった区間の改善状況などを確認

▲人吉新聞(平成26年5月28日)

球磨川での防災マップの作成・支援

3

- 防災マップは、洪水ハザードマップ等を活用し、地域コミュニティ単位で、避難場所や避難経路、危険箇所など自分たちの地域を自分たちで点検・確認し、地域独自のわかりやすいマップを作成するものです。
- ・八代河川国道事務所では、熊本高等専門学校と連携・協力に関する協定を締結（平成24年9月）し、教育・研究面の向上及び地域社会への貢献を目的に、熊本高専の学生と共同でマップづくりの支援を行っています。平成24年度には、八代市（植柳新町）や人吉市（上薩摩瀬町）でマップづくりの支援を行いました。
- ・熊本県では、平成22年度から、熊本大学と連携し、集落毎のマイハザードマップ作成の支援を行っています。球磨川水系においては、これまでに、人吉市（温泉町、下林地区）と五木村（竹の川地区、宮園地区）で支援を行いました。
- 今後も同様の取り組みを流域の各地区へ広げていく予定です。

- ① マップを作成する際に自分たちの地域の避難場所、経路を再確認することができる。
- ② 非常時の避難の際の危険箇所を把握することで、より実践的な防災マップとしての利活用を図る。
- ③ 安全かつスムーズな避難行動と洪水による被害の最小限化を図る。

防災マップの活用事例

【災害図上訓練】

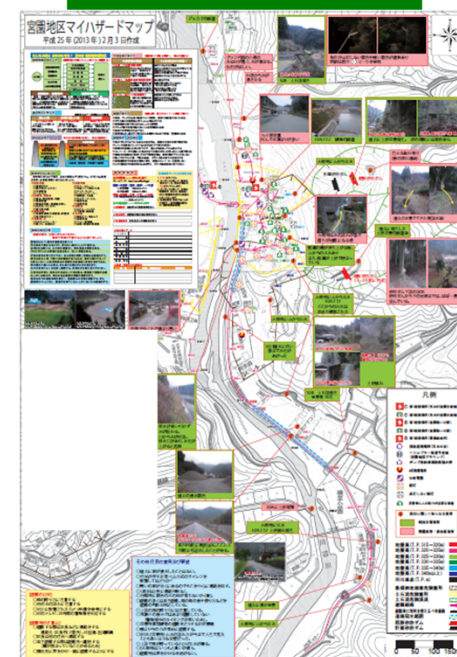
- ・訓練参加者が小グループで地図を囲み、地域のリスクなどを地図に囲みながら、災害対応の検討を進めていく訓練

■期待される効果■

- ・災害時の留意事項や避難時の注意箇所等の理解の促進
- ・災害に強い地域コミュニティをつくるための出会いの場



マイハザードマップ



まるごとまちごとハザードマップ

4

まるごとまちごとハザードマップは、浸水深や避難所など洪水に関する情報を洪水関連標識として生活空間である「まちなか」に表示することにより、住民に「洪水」に対する注意を促し、災害発生時には安全かつスムーズな避難行動に繋げ、洪水による被害を最小限にとどめることを目的としています。

八代河川国道事務所では、平成24年度に人吉市の下薩摩瀬町に、平成26年度には、上薩摩瀬町において避難所案内標識、浸水実績深の標識を設置しました。

今後も同様の取り組みを流域の各地区へ広げていく予定です。

「まるごとまちごとハザードマップ」の意義

- ① 過去の洪水被害について伝承し、意識高揚を図る。
- ② 浸水した実績（浸水水位）を表示し、危険箇所を把握する。
- ③ 安全かつスムーズな避難行動と洪水による被害の最小限化を図る。



発災時
判断のための情報提供
状況を知る

日常から“知る”ことで…

安全かつスムーズな避難

河川管理者と自治体の連携

「まるごとまちごとハザードマップ」の実施にあたっては、事前計画から設置・管理に至るまで河川管理者と自治体が連携して実施しています。また、九州電力柱、NTT柱、道路標識などへの洪水関連標識の設置にあたっては、関係機関にご協力いただいています。



避難ルートの現地調査
(危険箇所等の確認)



標識看板設置箇所の検討



河川監視カメラの増設・高度化とリアルタイム河川動画の配信 ⁵

○八代河川国道事務所では、河川監視を強化するため、カメラの更新にあわせ、電子増感装置を設置、カメラのハイビジョン化を進めています。これにより高精細の映像による危険箇所の監視が可能になるとともに、夜間でも監視を十分に行うことが可能になりました。また、リアルタイム河川動画を河川管理者、流域市町村、消防、自衛隊等の防災担当に配信し、避難勧告や水防活動の情報源として活用する体制を整えました。今後も、機器の更新にあわせ同様の取り組みを実施していく予定です。

○熊本県では、これまで、球磨川水系の県管理区間に5台の河川監視カメラを設置しており、現在、4台の増設工事中です。カメラの画像は、「熊本県統合型防災情報システム」で配信しており、いつでも河川状況の確認が行えます。

リアルタイム河川動画

1. いつでも、どこにいても

・携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等に対応し、**外出先からでも河川の現状を動画で確認**できます。**小さな画面でも十分見やすい鮮明な画像**です。

2. 河川の「今」がわかる

・合計**34台の河川監視カメラ**が映す球磨川の「今」を**24時間リアルタイムで把握可能**です。

3. 強力な防災情報提供ツール

・当面は、河川管理者や**流域市町村、消防、自衛隊**等の防災情報提供ツールとして活用します。
・実績を重ね、運用の効果も見た上で、**将来的には広く一般に**住民への提供も行う予定です。



大小様々なモバイル端末でも画像は鮮明！！

河川監視カメラの高度化



球磨川流域の河川監視カメラ設置箇所



【カメラ整備状況】
(平成26年12月現在)

国：34台
県：5台

期待される活用方法

- 自治体等：住民の避難勧告や避難指示の発令の際の情報源
- 現地活動：河川巡視や水防活動の効率化・二次災害防止の際の情報源

国、県で設置した球磨川水系の河川監視カメラは、八代河川国道事務所のホームページで一元的に見ることができます。